

事業報告書

第22期

自 2024 年 4 月 1 日
至 2025 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人 劇研

目次

特定非営利活動に係る事業

創造事業1

人材育成事業3

国際交流事業5

文化・芸術活動支援事業6

文化・芸術を教育や児童青少年育成に活用する事業 ・7

文化・芸術による地域のまちづくり事業7

創造事業	支出額 3,400,284 円
------	-----------------

1. 事業内容

シニア世代の表現活動促進を目的に舞台芸術作品の制作・上演を行った。

2. 活動実績

50才以上を限定とするシニア世代の劇団運営を継続。（劇研シニア劇団／高槻シニア劇団）

A. 京都を拠点に活動するシニア劇団銀宴の企画運営

（主な活動場所 左京西部いきいき市民活動センターほか）

シニア劇団「銀宴」練習毎週水曜日（指導・演出：田辺剛）

【第10回公演】『覚えられません！』（高槻 de 演劇 2024

参加作品）

脚本・演出 田辺剛 出演 9 名

2024 年 6 月 29 日～30 日、高槻城公園芸術文化劇場サンユレックホール

来場者数 188 名（2 ステージ合計）

<取り組み総括>

銀宴の記念すべき第10回目となる公演を「高槻 de 演劇 2024」の参加枠を受けて実施した。田辺剛さんの代表作『旅行者』が劇中劇として登場する本作は、劇中劇（『旅行者』）と劇（『覚えられません！』）との境界の揺らぎと、シニアの特性も活かした、劇（台本）と現実（アドリブ＝セリフが思い出せない）との境界の揺らぎを用いて、演劇的世界を立ち上げることを狙った。2025 年 3 月末現在は、第11回公演『箱のある風景』（脚本・演出 田辺剛）に向けて稽古を行っている。（岡田眞太郎）



B. 大阪府高槻市を拠点とする、高槻シニア劇団 2 劇団の企画運営

（活動場所 高槻現代劇場 富田ふれあい文化センター他）

千年団 練習毎週火曜日（指導・演出：小原延之）

公演：2024 年 6 月 21 日

第 5 回公演『和解』

脚本・演出：小原延之／1 ステージ

会場：高槻城公園芸術文化劇場サンユレックホール

公演出演者 12 名 来場者数：80 名



<取り組み総括>

高槻 de 演劇 2024 参加企画として上演。

2018年6月に北摂地方を襲った大阪北部地震を背景に理不尽な出来事に直面した家族が、どのように不幸と向き合い、それぞれの人生の課題として受け入れていくかを考える物語。

話はフィクションだが、私たちの忘れてはいけない震災の記憶を辿ることで、観客に昨今の不幸な出来事に思いを馳せることや、平穏な日常の幸せを感じることはもちろん、来るべき今後の備えに意識を向けることを目指した。

劇団員は13名だが仕事の都合があり、一つの役は高槻公演と扇町公演では別の方が演じるようになった。(飯坂美鶴妃)

そよ風ペダル 練習毎週火曜日(指導・演出:筒井潤(dracom))

公演:2024年6月29日、30日

第10回公演『空トーンの興亡』

脚本・演出:筒井潤(dracom)/2ステージ

会場:高槻城公園芸術文化劇場サンエレックホール

公演出演者12名 来場者数:240名



<取り組み総括>

高槻 de 演劇 2024 のプログラムの一つとして実施。

百貨店内にある休憩用のベンチに、洒落込んでいるダンディな客たちが腰を掛け、ノートやメモ紙に言葉を綴っている。そこに描かれる出来事や物語が、百貨店に佇むほかの客たちによって上演される。

溢れんばかりのユーモアのなかに、そこはかとない情愛や社会風刺の要素もある、そよ風ペダルお得意のナンセンスコメディの上演となった。

多世代が共有できる経験と興味深い歴史的背景をもつ百貨店を舞台とする作品を通して、演劇に馴染みのない方にその魅力を知ってもらい、創客と劇場文化の発展に寄与することができた公演であった。

(飯坂美鶴妃)

人材育成事業	支出額 2,916,556 円
--------	-----------------

1. 事業概要

舞台芸術に関わる人材育成を目的に、各種のプログラム及び公演を実施した。

2. 活動実績

・演劇初心者、アマチュアの演劇愛好者を対象にした公演クラスの継続(京都1クラス/高槻2クラス)

A. 劇研アクターズラボ・公演クラス 京都（主な活動場所 左京西部いきいき市民活動センター）

演劇初心者、アマチュアの演劇愛好者を対象にした演劇クラス。1年間の練習を経て公演を実施する。

「劇研アクターズラボ+村上慎太郎」 チーム名「劇団 デマチカヤナギ」<指導：村上慎太郎>

土曜日午後2時30分～4時30分 メンバー数12名～18名

3回目となる公演を2024年5月に実施した。公演は左京東部いきいき市民活動センターの主催事業「新緑の文化祭」の一環として実施した。2024年6月からは新たなメンバーを加え異例の4期目として活動を継続している。（4期が最終年）

第3回公演「恋のラストアドバイス」

2024年5月4日～5月6日 4ステージ

会場：左京東部いきいき市民活動センター集会室 来場者数：161名

<取り組み総括>

昨年、一昨年に引き続き左京東部いきいき市民活動センター集会室を劇場化し上演を行なった。会場も定着してきた感触もあり、初年度から毎年およそ20名づつ観客が増えている。継続参加者が多かったことでチームの総合力が上がり、より良い作品が見せられた。体調不良のため1名が急きょ参加できなくなり二口大学さんに代役を頼むハプニングがあったものの、チームのモチベーションは高くほとんどのメンバーが第4期も継続して参加することとなった。

（杉山準）



B. 劇研アクターズラボ・公演クラス高槻（主な活動場所 高槻城公園芸術文化劇場<大阪府高槻市>）

演劇初心者、アマチュアの演劇愛好者を対象にした演劇クラス。1年間の練習を経て公演を実施する。

「劇研アクターズラボ+高杉征司」 チーム名「私鉄沿線・B」<指導：高杉征司>

<稽古> 練習毎週水曜日、金曜日

【第3期】2024年2月～2025年3月 受講13名

稽古会場：城内公民館など

<公演>

【第3期】『何もない部屋』

脚本・演出 高杉征司 出演12名



2025 年 3 月 8 日, 9 日 高槻城公園芸術文化劇場サンユレックホール

来場者数 207 名 (2 ステージ合計)

< 取り組み総括 >

高杉征司さんを講師に迎えた「私鉄沿線・B」の第 3 期は、既存のメンバーが数名脱退した代わりに新規メンバーが 10 人近く加わり、最終的には 13 名の受講生（出演 12 名、制作補佐 1 名）で 2025 年 3 月の公演を迎えた。サンユレックホールを劇場提携無しで借りた関係で予算面で制限は大きかったが、講師・スタッフ・受講生の協力のもと無事上演に至り、来場者数も第 2 期と比べて約 2 倍の 207 名を記録した。私鉄沿線・B は第 3 期をもって NPO 劇研からは独立。今後の活動は未定。（岡田眞太郎）

国際交流事業	支出額 2,886,865 円
--------	-----------------

1. 事業概要

舞台芸術を通じて交際交流を推進する事業。

2. 活動実績

アトリエ劇研を運営していた頃から縁の深いフランスの俳優
ディディエ・ガラス氏の作品を、音楽家 野村誠氏とともにリメ
イクし、鳥取、京都、広島で上演を行なった。

また、2年前に共同で事業を実施したスコットランドの劇団
Tricky Hat との交流は続いており、次年度スコットランドに元シ
ニア劇団星組の「50 歳からのハローワーク」チームのお細見
佳代さんおよびメンバー有志が渡航し、当劇団の主催する催
しに参加する予定となっており、今年度はその準備を行なった。



3. 活動総括

コロナの影響も少なくなり、久々に国際交流の事業が復活できたことは大きな収穫であった。ディディエ ガ
ラス氏の作品は、各地で好評を博し、広島と京都で行なったワークショップも非常に好評であった。

シニア劇団星組メンバーと劇団 Tricky Hat の交流が発展的に続いていることも大きな収穫だった。（杉山準）

文化・芸術活動支援事業	支出額 2,981,442 円
-------------	-----------------

1. 事業概要

舞台スタッフやプロデュースなど専門家の派遣や演劇プログラムの企画・実施等を請け負う。

2. 活動実績

- ・近畿大学文芸学部芸術学科舞台芸術専攻等への高所作業指導員の派遣。年間複数回実施。
- ・公益財団法人高槻市文化スポーツ振興事業団が行う、高槻現代劇場の演劇プログラムの受託。

近畿大学および付属高校に高所作業等指導者を派遣

年間実績：延べ 80 名（2023 年度 100 名、2022 年度 63 名、2021 年度 53 名）を派遣した。

昨年より減少したものの、コロナ禍からの回復により、派遣数は増加傾向にある。

公益財団法人高槻市文化スポーツ振興事業団から演劇プログラムの受託

2023 年 4 月にオープンした新劇場「高槻城公園芸術文化劇場」大スタジオ(現 サンユレックホール)で
2012 年から続いてきた演劇事業「高槻 de 演劇 2024」を実施した。

総観客数:984 名（昨年 663 名）

3. 活動総括

近畿大学からの委託は昨年より減少したものの安定してきている。一昨年度劇場建て替えに伴い中断していた、高槻 de 演劇事業は新劇場の 2 年目となり、昨年に増して多くの来場者を迎えることができ、作品評価も上々で市民劇の定着を印象付けることができた。（杉山準）

文化・芸術を教育や児童青少年育成に活用する事業	支出額 0 円
-------------------------	---------

1. 事業概要

舞台芸術の表現の魅力を伝えるとともに、その表現や演技の力を社会に活かす活動を実施する。

2. 活動実績

今年度も高槻での新劇場のオープンに伴い、継続していたアウトリーチ事業が全て中止となった影響を受け実施されなかった。

3. 活動総括

授業の一環で小・中学校で演劇にまつわるワークショップを行う事業は、2022 年度まで 11 期目続いてきたが、2024 年度も（公財）高槻市文化スポーツ振興事業団からの発注がなかったため残念ながら中断してしまった。今まで培ってきたノウハウを活かすべく今後の復活を祈りたい。（事業担当：杉山準）

文化・芸術による地域のまちづくり事業	支出額 36,909,521 円
--------------------	------------------

1. 事業概要

文化・芸術を活用した手法を用いて地域のまちづくり、市民活動の活性化、地域振興に資する事業を実施する。

2. 活動実績

- ・京都市左京西部いきいき市民活動センターおよび左京東部いきいき市民活動センターの管理・運営およびサロン（旧 高齢者ふれあいサロン）の管理運営と市民活動、地域活性化に関わる事業の実施。建物の維持管理を行うとともに、会議室を、文化事業を始めとする市民活動に貸し出す事業を実施した。
- ・高齢者福祉やまちづくりに資する以下の「提案事業」（旧「市民活動活性化事業」）を京都市の委託事業として実施した。

<左京西部>

2022 年 4 月より、「利用料金制度」へと移行し、一律 100 円/1 時間であった使用料が最大 600 円/1 時間となり、指定管理料 20,925,802 円/1 年+市民活動活性化事業費 50 万円、合計 21,425,802 円から、必須業務 12,202,090 円/1 年+提案事業 475 万円/1 年で合計 16,952,090 円/1 年となり、減った分の 4,473,712 円は利用料収入で賄うこととなった。

2024 年度の会議室等利用件数は 3,919 件で前年度比 97.4%だった。（2023 年度 4,022 件）総利用時間は 9,230 時間で利用率は約 48.5%（2023 年度 50.1%）だった。

会議室等利用料収入は 44,643,700 円でロッカー使用料が 70,550 円、合計 4,714,250 円（2024 年度 4,891,780 円）だった。

今年度からの取り組み

一昨年度 3 月より、利用者の利便性向上のため、当日の利用に限り、電話での仮予約を受け付ける事とした。2024 年には 225 件の当日電話仮予約があり、今後も利用者増加につなげたい。また、地域の子ども会、小中学校と連携し、これまでの子育て世代、高齢者に加え、小中学生を対象とした企画を始めた。

主な提案事業について

昨年度同様、サロンを使用した廃材アートワークショップや、子育て世代を対象にした物々交換会『自由菜園』や『自由本棚』の取り組みは好評につき継続している。「高齢者食堂」から、は高齢者に限定せず誰でも参加できるものとして名称変更した「ふれあい食事会」は参加者も増えて、防災イベントも小規模ながら開催した。また、小中学生を対象とした「ようせい・アート・むら」を始めた。

今後の展望

利用料制度4年目に入り、指定管理の申請がある年となった。養正市営住宅建て替えに伴う跡地利用を含め、地域の活性化にNPO劇研が果たす役割も徐々に大きくなってきており、今後数年間で実施される再開発に文化芸術の活用を盛り込んでいくため、様々な取り組みで地域や周辺住民との連携を強化していると考えている。（山口浩章）



<左京東部>

昨年のような大幅な利用件数の下落（前年比マイナス22%）ではなかったものの、8%程度減少した。新規登録団体数は158増えたものの、利用団体数が昨年度と比べて7団体減少していること。利用頻度が高かったいくつかの団体の申請件数（利用時間数）が大きく減ったこと。*2023年度の利用頻度が高かった2団体（個人）だけで111件の減少が影響していると考えられる。収入の減少と最低賃金の上昇などによる支出の増加で昨年の黒字はなくなり、収支はほぼ同額となった。当センターは2025年度（R7年度）末をもって閉館が決定しており、利用者の減少傾向は続く予想される。収入を増やすための利用促進を今年も継続したい。

利用料金の収入実績

2024年度（令和6年度）実績：6,289,660円（前年度比89.5%）

内訳 会議室等：6,159,000円

付属設備：70,900円 ※自主事業分を除く

ロッカー：59,760円

*主な主催事業

【事業名】芸術・文化を活用した地域のまちづくり事業 取り組み1 『多様な交流の促進事業』

昨年度に引き続き、左京東部いきいき市民活動センターを、利用団体、地域団体などとの交流の場として機能させる目的で文化交流事業を開催した。「新緑の文化祭」「秋の文化祭（前期・後期）」「春の文化祭」と題して、センタ利用者による多ジャンルの音楽、ダンス、演劇、落語など多彩な催しを実施した。中学生からシニア世代まで幅広い世代が参加し、外国籍の参加者も交えレベルの高い公演・演奏などを実施した。出演者どうし、観客を交えて楽しい交流の機会を創出した。



開催日時： 令和 6 年 5 月 4 日（土）14 時、18 時 30 分 等

開催場所： 左京東部いきいき市民活動センター 集会室

参加人数： 463 名（昨年 351 名）

協力団体等： C.T.T. 京都事務局、T-position Ballet など参加団体

3. 活動総括（事業担当：杉山準）

いきいき市民活動センターの指定管理事業は、2022 年度（R4 年度）からの利用料金制移行に伴い、より運営努力を求められることとなった。事業を通じた宣伝・広報活動を通じ利用状況の向上に努めた結果、昨年度からの大きな落ち込みは回避できている。引き続き積極的に利用促進を図りたい。事業については両センターともに活発に実施され、来場者も増え前年度に増して盛り上がりを見せている。特に左京西部ではセンターは地域のまちづくりに当年度も積極的に関与し、地域との信頼関係もより高まっている。主催事業に加えてこうした活動がセンターの存在感を増すことにつながっている。（杉山準）